

広川町 全戸配布	<稲むらの火の館> <b>やかただより</b>	第48号 H26・3月	年に一度は 館に行こう！
-------------	----------------------------	----------------	-----------------

○今、やかたでは・・・

**【熊野古道語り部さんのお連れ様より20cmほどに育ったタブノキを頂きました。】**

タブノキは、森の防潮堤構想の主木として今注目されている樹木です。

クスノキの仲間、大木になります。このタブノキは、原爆の放射能や地震・火事や津波にも耐えて永く生きのびる粘り強さを持っているというのです。

このタブノキを中心とした樹木によって津波被害の軽減につなげようという取り組み、森の防潮堤計画が進行し実践されています。現在、岩手から福島までの300kmの海岸線にそれぞれの自治体が数千本から数万本の苗を植樹しようという計画です。

この小さな苗は子どもたちが大人になる頃には立派な森になります。20年後、東北で暮らす人たちの命を守る力強い森になるのです・・・見守りたいですね。

写真が、森の防潮堤構想の主木タブノキの苗です。



○お客様の声コーナー

\*今日で3回目になります。来るたびに情報が変わってるので、新鮮さを感じます。

(団体で来館された男性)

\*4年生なので、5年生になれば展示されていたような国語の教科書を使うと思います。稲むらの火を習ったらまたここに来たいです。(女子)

\*稲むらの火のこと、地震のことがよく

わかったから良かったです。(男子)

(奈良県葛城市から家族で来館された小学生の女子と男子)

○お茶会が開催されました

今年も茶道サークル主催によるお茶会が2月9日に催され、恒例になりつつあります。今年は地元の方だけでなく、団体でお越しのお客様も含め、95名の参加がありました。和服を召した会員様がお客様を接待され、華やかな雰囲気になりました。



○稲むらの火の館退職の挨拶

平成22年度より4年間館に勤務させて頂きました。この度、平成26年3月末をもって退職することになりました。

この間、東日本大震災が発生し、危機感を持たれた来館者が多数訪れ、津波防災について学ばれました。

また、「やかただより」を通して稲むらの火の館の日常の様子を配信してきました。

「お客様の声コーナー」では女子職員がお客様から頂戴した「お声」を使わせて頂きました。「入館料500円は安い」「いろいろな施設の中で一番良かったわ」等、お褒めの言葉をたくさん頂きました。

今後とも広川町民の「稲むらの火の館」としてご支援下さいますようお願い申し上げます。退職の挨拶と致します。

館長：熊野 享

裏もご覧下さい。

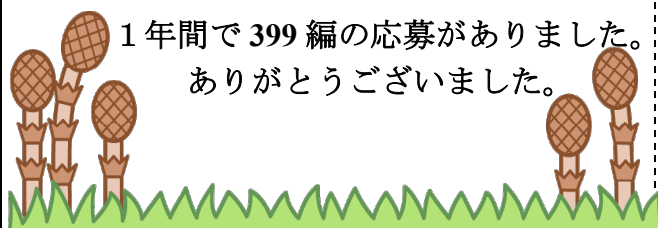
2面 広川町	<稲むらの火の館> <b>やかたただより</b>	平成26年 第48号	いざという時 あなたは！
-----------	-----------------------------	---------------	-----------------

### <5・7・5防災標語>

昨年1年間、館に来られた小学生を対象に募集しました、「5・7・5防災標語」の優秀作品を載せています。

**【9月～12月作品 160編の応募がありました】**

1. 家族との やくそくまもって にげようね  
湯浅町立田栖川小学校 3年 女子
2. ふだんから 防災意識を 高めよう  
湯浅町立湯浅小学校 4年 男子
3. 津波だぞ 家族待たずに 高台へ  
田辺市東部小学校 4年 男子
4. まもろうよ 自分の命 大切に  
紀の川市立粉河小学校 4年 女子
5. 災害時 たよりになるのは 判断だ  
堺市立鳳南小学校 5年 女子
6. じしんはね 長くゆれたら つなみくる  
御坊市立藤田小学校 5年 女子
7. 信じよう 家族もきっと にげている  
阪南市立西鳥取小学校 5年 女子
8. まもろうよ だいじなものを つなみから  
和歌山市立太田小学校 4年 女子
9. 大地しん みんなでにげろ ひなんばしよ  
田辺市立上芳養小学校 4年 男子
10. じしんだよ すぐにこうどう 高台に  
由良町立衣奈小学校 4年 女子
11. ひなん場所 家族みんなで 知っておく  
田辺市立巽小学校 4年 女子
12. 稲むらの 炎のおかげ 助かった  
富田林市立小金台小学校 5年 男子
13. にげきろう 自分の命 守るため  
湯浅町立湯浅小学校 女子



### <死して余栄あり>

梧陵は晩年、公事に身を捧げ家業も安定したのを見届けて、若い頃より熱望していた海外渡航の志を果たす。ところが渡米した後、体調を崩し遂に翌1885年(明治18年)4月21日、ニューヨークにて永眠。享年66歳。

訃報を聞いた友人、勝海舟や福沢諭吉ら人々の驚きは計り知れず、5月28日横浜に梧陵の遺骸を乗せた船が到着するやいなや、実に多くの人々がこれを出迎え、3日間同地に安置して弔問を受けた。

再び汽船で神戸に向かい、そこから小蒸気船小野丸で郷里広村に送り届けられた。

梧陵の永眠を悲しまない者はおらず、村をあげて哀悼し、皆互いに慎んで一切の音曲をやめ、ひとしく彼の生前の遺徳をしのび、感謝と哀悼の誠意を捧げた。

超えて6月14日、広村西の浜で、葬儀が執り行われた。会葬者が4千名余りにのぼり、この地方においては未曾有の盛儀だったと伝えられている。

1915年(大正4年)、大正天皇即位の大札にあたり、梧陵多年の功勞に対して、11月10日、従5位を贈位された。

梧陵が亡くなって31年、**死して余栄あり**というべきである。

#### <稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

TEL: 0737-64-1760 / FAX: 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29～1/4)

\*記念館だけの入場は無料です。